

広げよう福祉の輪！

三徳だより

第85号 2015年(平成27年)夏 一季刊—
発行：社会福祉法人三徳会



戸越台デイサービス
ご利用者共同作品

特別養護老人ホーム 成幸ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0053 品川区中延1-8-7 TEL.(代)03-3787-3616 FAX.03-3783-6580 santoku-seikou@ap.wakwak.com

品川区立戸越台特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0041 品川区戸越1-15-23 TEL.(代)03-5750-1054 FAX.03-5750-1055 santokukai.togoshi-h@proof.ocn.ne.jp
杜松在宅介護支援センター <http://www.togoshiginza.net/togoshi/machi/topics/topics.cgi>
〒142-0042 品川区豊町4-24-15 TEL.(代)03-5750-7707 FAX.03-5750-7709

品川区立荏原特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0063 品川区荏原2-9-6 TEL.(代)03-5750-2941 FAX.03-5750-3695 santokukai@aw.wakwak.com
小山台在宅介護支援センター
〒142-0061 品川区小山台1-4-1 TEL.(代)03-5794-8511 FAX.03-5794-8512

品川区立小山在宅サービスセンター「小山の家」
〒142-0062 品川区小山7-14-18 TEL.(代)03-5749-7251 FAX.03-5749-7252
小山在宅介護支援センター TEL.(代)03-5749-7288 FAX.03-5498-0646

児童センターは0歳から18歳未満の子どもたちの健全育成と子育て支援の施設です。品川区には25館の児童センターがあり、子どもたちや乳幼児親子の生活圏に設置されています。

児童センター事業の大きな柱の1つは子育て支援です。0才から3才までの「親子のひろば」が全児童センターで実施されています。季節行事、歌遊びや体操など楽しい親子活動を通じて、子育ての仲間作りを進め、子育ての相談の窓口も行っています。児童センターは妊娠から子育てまで切れ目のない地域の子育て支援の拠点を目指しています。その他にも小学生対象、中学生対象、地域交流など子どもたちの成長に合わせた様々な子育て支援事業を行っています。

中高生事業を重視した児童センター、ティーンズプラザは25館中9館あり、バンド活動などの音楽活動、ヒップホップなどのダンス活動、ミュージカル、バスケットボール、トランポリンなどのスポーツ活動、ボランテニアなどの社会貢献活動など様々な中高生活動を支援しています。ゆたか児童センターは戸越公園やゆたか図書館に隣接する、区内で2番目に広い児童センターです。体育室のような大きな部屋はありませんが、5階建てで部屋数が多く、それを生かして乳幼児親子から中高生までを対象とした幅広い活動を行っています。

活動の中でも大きな看板は、戸越台ホームの納涼祭でお世話になっている和太鼓演奏に取り組む「太鼓クラブ」です。品川区の児童センターで唯一の和太鼓クラブでもあります。小学1年生から6年生まで約40名の在籍があり、盆太鼓から組み太鼓まで取り組んでいます。入門す

るとまず品川音頭の盆太鼓から練習を始めます。その後クラスが上がると組み太鼓に挑戦し、上級クラスになると更に難易度の高い「秩父屋台囃子」に挑戦します。しかし盆太鼓は地域の盆踊りで活躍する子も多いので上級になっても品川音頭をはじめ、炭坑節や相馬盆唄、東京音頭など多くの盆太鼓練習を欠かさず行っています。その成果もあつて区民まつりや区内イベントでの演奏活動、町会での盆踊りでは大好評です。

小学生、中高生対象には、太鼓クラブの他ヒップホップダンス、一輪車、バンド、ボルダリングなどに活動があります。ボルダリングは石に見立てたホールドと呼ばれるカラフルな突起をつかみながら、指定されたコースを登るニユースポーツでオリンピック競技の候補にもあがっています。親子で同じ壁に挑戦でき、スポー

地域の子育てステーション



ゆたか児童センター
館長

上地 史人

ツを通じた親子交流にも一役買っています。

バンドは小学3年生から取り組むことができ、ギター、ベース、ドラムなどの楽器に挑戦し、仲間で力を合わせて楽曲をしあげて行きます。2年前から小学生バンドが品川音頭を生演奏し太鼓クラブとコラボレーションする取り組みを行っています。伝統文化が根付いている地域だからそのコラボレーションです。小学生から高校生、子育て中のママまでが同じスタジオで共に応援しあいながらバンド練習しています。

屋上から見える新幹線に子どもたちのファンが多いことをきっかけに、プラ電車で遊ぶ親子事業を進めています。おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に参加する子どもたちも増えています。地元、大崎高校のパーパージオラマ部の協力を得て、紙で作る街のジオラマをプラ電車にあわせて子どもたちと作る取り組みも行っていきます。

また新米。パパ、ママ向けの、親育ちのためのワークショップは大好評です。お互いに情報交換しながら、焦らずじっくり子育てに向き合える自信と仲間づくりを進める役割を果たしています。また、ワークショップ中のお子さんの保育は地域の子育て応援団の地元の先輩ママたちのボランティアに支えられています。

児童センターは地域の中で大人と子どもの交流を進め、子どもたちが健やかに成長できる「まち」を目指して、皆さんと協力しあつて、頑張つて行きたいと思えます。機会がありましたら、ぜひ子どもたちのためにお力をお貸しください。よろしくお願ひします。



「経鼻栄養から経口栄養摂取への取り組みについて」

品川区立戸越台特別養護老人ホーム 生活サービス室

発表者：宮崎 憲嗣
鹿野 仁美



〈はじめに〉

介護保険が導入されてから特別養護老人ホームの重度化が進んできた。その中でも嚥下機能の低下による経管栄養への移行は重要な課題になっている。ご利用者、ご家族は口から食べられないにも関わらず命を長らえることがいいことなのかと苦慮しながらも決断を迫られ、鼻腔力テール挿入や胃ろう造設後も誤嚥や嘔吐のリスクを抱えながら生活している。近年はご利用者の元気な時の意向やご家族の判断により看取りを選択し、経管栄養をせずにホームに戻られる方も増えてきた。

〈ケース紹介〉

A様 女性 90歳 要介護度5、ADL全介助、平成18年1月入所、食事形態は極刻み。会話はできないが、人を目で追ったり、声をかけると目を動かししたり、つらい時には顔をしかめることができる。

平成24年11月に肺炎で約1ヶ月入院した。入院先で経鼻栄養を外すと生命の維持ができないと説明をうけ胃ろうを勧められたが、ご家族は、以前父親に対して経管栄養を選択したことに苦しい思い出があったため、ホームの嘱託医や看護、栄養などの各セクションとも話し合い、鼻腔の力テールのままホームで受け入れることになった。

〈再入所後のアプローチ〉

再入所にもない、A様とご家族を中心に、ホームの各セクションが連携して経鼻栄養と併用しながら経口摂取にむけて取り組んだ。病院とご家族、相談員で再入所の日程を決め、当日までに栄養士が嚥下訓練用ゼリーを用意した。

再入所した当日、機能訓練指導員が嚥下マッサージを行い、看護師が嚥下訓練用ゼリーを使い、嚥下の確認を行った。食事を咀嚼してのどの奥に送り込むことが難しかったため、嚥下反射を利用して摂取していただく方法をとった。最初はほんのひとかけらのゼリーからはじまり、初日はひとかけらを飲み込むまでに40秒ほどかかった。飲み込むことを忘れてしまうようにもみえた。

〈具体的な取り組み〉

- ・嚥下訓練用ゼリーは市販のゼリーと比べ離水が少ないので飲み込みやすい。また、低力ロリーで誤って肺に入っても菌が増えにくく、誤嚥性肺炎になりにくいといわれている。
- ・食事はのどごしがよいツルンとしたものがよいのでゼリー食を提供した。

- ・トロミ剤は一般的なトロミだとハチミツ状になり、A様にとつては口から流れ出たり、誤嚥につながる可能性があるため口の中で溶けないゼリー状になるトロミ剤を使用した。
- ・機能訓練指導員が食事前に毎日嚥下マッサージを行った。
- ・食事姿勢は、嚥下反射しやすいようにチルド式の車いすで角度をつけて食べるようにした。
- ・食事介助する介護士によって一口量がまばらにならないように、スプーンの先が小さいものにした。
- ・嚥下は一口ずつ確認しながら行った。むせ込んだり、口が開かなくなった時には無理をせず、摂食量より安全に口から食べることを優先した。

これらの取り組みを継続し、約2週間かけて鼻腔力テールを抜き、通常のゼリー食へと移行できた。

〈考察〉

経鼻栄養で再入所してから2週間で経口摂取に移行することができた。ゼリー食に移行できただけでなく、食べられるものは限られるが、おやつやホールの喫茶にも参加することができ、以前の生活の中の楽しみも取り戻すことができたのではないかと思われる。また、嚥下反射だけで摂取していたが、少し咀嚼をしたり、吐き出すこともできるようになった。

A様はコミュニケーションをとることが困難で、楽しみを探ることは難しかったが経鼻栄養で命を長らえるよりも、口から食事をするという自然な営みを最後まで続けることができた。経口摂取に移行してからご逝去されるまでの約2年間、入院することなくホームで看取ることができた。経管栄養については立場や状況によってさまざまな見解がある。

今回の事例から、治療を優先する病院と生活を優先する特別養護老人ホームの、高齢者における終末期のありように相違はあるが、ご家族の決断を支えることができ、また、A様にとつても望まれていたことではないかと信じている。

〈まとめ〉

食事以外に生活の中で楽しみを見出すことができるご利用者にとつて、経管栄養は生きる力となるが、そうでない方にとつては「延命」ということになるのかもしれない。

私たちはご利用者、ご家族がどんな選択をしても、少しでも生活に楽しみを見出すことに力を惜しまず、できる限りの支援をし、これからも自然な営みである口から食べることにこだわっていききたい。

▼情報公開について▲

三徳会では、地域の皆様方および関係する方々に三徳会に対するご理解ご協力をいただくため、平成26年度の決算の概要と事業報告を公開いたします。

紙面の関係からお知らせする内容は、概要のみとなっておりますが、詳しくお知りになりたい方は各施設の窓口にお申し出ください。

1. 平成26年度決算の概要 (平成27年3月31日現在)

① 貸借対照表

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	917,610,198	流動負債	173,973,586
固定資産	2,746,583,600	固定負債	139,392,532
		負債の部合計	313,366,118
		純資産の部	
		基本金	473,161,831
		国庫補助金等特別積立金	122,909,660
		その他積立金	1,396,568,174
		次期繰越活動収支差額	1,358,188,015
		純資産の部合計	3,350,827,680
資産の部合計	3,664,193,798	負債・純資産の部合計	3,664,193,798

② 財産目録

資産の部

負債の部

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産合計	917,610,198	流動負債合計	173,973,586
基本財産	1,001,106,551	固定負債合計	139,392,532
その他の固定資産	1,745,477,049		
資産合計	3,664,193,798	負債合計	313,366,118
		差引純資産合計	3,350,827,680

③ 事業活動計算書 (社会福祉事業区分)

(単位：千円)

科目	本部	成幸	戸越台	荏原	合計
サービス活動収益計	4,286	552,910	733,929	966,530	2,257,656
サービス活動費用計	34,543	558,069	726,403	945,704	2,264,719
サービス活動増減差額	△30,257	△5,159	7,526	20,826	△7,063
サービス活動外収益計	21,035	1,067	1,314	2,237	25,652
サービス活動外費用計	25	43	77	219	364
サービス活動外増減差額	21,010	1,024	1,237	2,017	25,288
経常増減差額	△9,247	△4,135	8,763	22,843	18,225
特別収益計	26,403	400		95	26,898
特別費用計	1,346	7,270	9,361	12,202	30,178
特別増減差額	25,057	△6,870	△9,361	△12,107	△3,281
当期活動増減差額	15,810	△11,005	△598	10,736	14,944
前期繰越活動増減差額	6,250	731,149	231,464	314,520	1,283,383
当期末繰越活動増減差額	22,060	720,144	230,866	325,256	1,298,327
その他の積立金取崩額			2,500		2,500
その他の積立金積立額					0
次期繰越活動増減差額	22,060	720,144	233,366	325,256	1,300,827

1. 三徳会では、法人が実施している社会福祉事業の財政状態、事業活動の成果及び収支の区分を報告するため、社会福祉事業区分を設定し、法人本部、成幸、戸越台、荏原の4拠点区分に分類しています。
 2. 千円未満を四捨五入して関係で縦、横の合計が一致しないものがあります。
 3. 詳しくお知りになりたい方は、各施設の事務室にお尋ねください。
- ※注1) 平成24年度より会計基準を指導指針から社会福祉法人会計基準へ移行しています。

2. 平成26年度事業の主な実績 <各施設利用状況>

① 特別養護老人ホーム（平成27年3月31日現在）

施設名		成幸	戸越台	荏原
定員		80人	72人	120人
現入所者	男性	15人	14人	14人
	女性	65人	55人	99人
平均年齢		89.2歳	90.1歳	90.9歳
最高年齢	女性	107歳	101歳	104歳
	男性	92歳	96歳	96歳
平均要介護度		3.6	3.8	3.6
平成26年度新入園者		24人	29人	37人

② 在宅介護支援センター

（単位：件）

施設名		成幸	戸越台	杜松	荏原	小山	小山台	合計
要介護認定調査件数		547	376	622	535	605	327	2,408
相談者数		12,153	9,091	12,415	11,742	10,500	6,556	62,457
居宅支援件数		4,260	4,259	4,574	3,965	3,874	2,824	23,756
内訳	要介護1～5	2,225	2,375	2,306	2,002	1,964	1,748	12,620
	要支援1～2	2,035	1,884	2,268	1,963	1,910	1,076	11,136

③ 在宅サービスセンター

（単位：人）

施設名		成幸	戸越台	荏原	小山	合計
基本デイサービス(定員)		20	30	40		90
基本デイサービス(延)		5,176	7,889	10,602		23,667
内訳	予防給付	1,841	2,009	3,872		7,722
	介護給付	3,335	5,790	6,730		15,855
平均要介護度		2.0	1.8	2.0		
認知症デイサービス(定員)		10	10	10	10	40
認知症デイサービス(延)		1,805	2,114	2,772	2,214	8,905
平均要介護度		2.1	2.0	2.1	2.2	
身近でトレーニング(延)			(定員15) 869	(定員15) 711		1,580
身近でリハビリ(延)			(定員40)1,331			1,331

身近でトレーニングは週1回、身近でリハビリは週2回実施

④ ショートステイ

（単位：人）

施設名(定員)	成幸(16人)	戸越台(8人)	荏原(30人)
利用者数(延)	4,948	2,939	10,768
平均要介護度	2.7	2.7	2.6

戸越台ホーム



「20周年、戸越台まつり」

第20回を迎えた戸越台まつりが、7月11日に盛大に開催されました。施設利用者をはじめ地域の多世代が集う場として、小さな子供から100歳以上の施設利用者まで、楽しいひと時を送りました。

舞台では、ゆたか児童センターや三ツ木児童センターの子供たちの熱気溢れる和太鼓やダンス、他にもゆたか民謡部や栄寿会の皆さまの踊りに会場は大いに盛り上がりました。

開催にあたっては、戸越台中学生や地域の人々など総勢170人のボランティアに支えられています。戸越銀座商店街のマスコットキャラクター「銀ちゃん」も来場。地域とのつながりを感じる戸越台まつりとなりました。

成幸ホーム



「今年の夏も区民まつり！」

7月25日(土)京陽小学校で荏原第3地区の区民まつりが行われました。三徳会では、毎年恒例となりましたポップコーン販売と介護相談コーナーを設けました。夏休みに入って最初の週末ということもあり、区民まつりには、小中学生の皆さんも楽しんで参加していました。

また、介護相談コーナーでは、来年5月に開設する「平塚橋ホーム」のPRを行いました。地域の中の新しい施設とあって皆さんの関心も高く、パンフレットを手取る方やお問い合わせもいただきました。お陰さまで各模擬店は盛況、地域の皆さんと楽しんだ夏の1日となりました。



小山の家



「よじろそ涼を呼び海中散歩へ」

連日、厳しい残暑が続いています。小山の家ではご利用者に少しでも涼しさを感じていただけるように海の中を優雅に泳ぐ魚をイメージしたちぎり絵を作成しています。下書きをご覧になったご利用者や作成に参加されるご利用者からは「涼しげね」という声や「海中散歩してるみたいね」という声がかかります。

たいね」という声がかかれています。

実際の作業では、魚の種類によって折り紙だけではなく、和紙も使用して微妙な色づかいと立体感を表現しています。また、スパンコールなどのキラキラしたものも使用することで、より海の中らしい感じを出しています。色鮮やかな魚たちが「涼」を運んでくれます。

荏原ホーム



「のんびり介護フェスタ荏原」

6月14日(日)、荏原ホームのロビーにて新しい試みとして日頃介護しているご家族に向けて「のんびり介護フェスタ荏原」を開催しました。(参加者20名。6支援センター共催)

前半は認知症サポーター養成講座を行い、ビデオ、講義、寸劇を通して認知症・認知症のある方への接し方について学びました。後半は「介護のイ・ロ・ハ」と題して、①車いす操作、②ベッドから車いすへの移乗、③おむつの種類・当て方の3つのコーナーを皆さんが回って介護の基本を学ぶ機会を持ちました。熱心に職員に質問される方もいらっしゃいました。その後はお茶を飲みながら、参加者の皆さん同士で情報交換や悩みを分かち合っていました。



はつらつ ボランティア

夏のボランティアは元気一杯！

品川区社会福祉協議会の品川ボランティアセンターでは、自分たちの暮らしている地域社会に関心を深め、区民として積極的に社会に参加することの意義を学ぶことを目的に毎年、青少年を対象とした夏の体験ボランティアを募っています。

参加者はボランティア活動に関心がある区内在住・在学の中学生、高校生、大学生で、区内の高齢者施設や障害者施設、病院、児童センターなど様々な場所で、100名以上の学生がボランティア活動に励んでいます。施設で活動をした高校生からは「お茶ひとつとっても、お年寄りが火傷をしてしまわないように、温度調節をしたり、トロミを付けなければいけなかったりと大変なことがわかりました」、「とても疲れたけれど、福祉の勉強になりました、デイサービスで利用者さんとたくさん話せたのが、とても楽しかったです」という声が寄せられています。

今年、成幸デイサービスで活動をされた北村泰生さんにお話を伺いました。北村さんは、現在高校1年生。普段は高齢者と接する機会はなく、ボランティアは初めてにも関わらず、4日にわたり活動してくれました。ご利用者との会話では、女学校時代の話や昔のことを聞いたのが印象に残っているとのこと。ちょっとしたことでも「ありがとう」と返してくれるのが嬉しかった、そして、おやつの時間になり「あなたのおやつはないの？ これ食べると差し出されたときはちょっと困ってしまいました、という微笑ましいエピソードを聞かせてくれました。

また、学生のボランティアといえば年間を通して、戸越台中学校の活動があります。今年の夏も戸越台ホームでシート交換やリハビリ、食事の配膳や下膳、掃除、クラブの手伝いなどに大勢の生徒がボランティア体験をしました。ひと夏の体験は青少年の皆さんそれぞれが、人々の出会いの中から「ともに生きていく」ことの意味を考える機会となったことでしょう。これからも、皆さんの笑顔とともに元気を届けてください。

来年の夏もお待ちしております。



ひとりごと —職員リレーエッセイ—



介護の現場の中で、ご利用者からよく「ありがとう」と言われることがあります。「ありがとう」の言葉に、力が湧きもつと頑張らなくちゃいけないと身が引き締まる思いがします。

私が介護の仕事始めるきっかけになったのは、戸越台中学校での職場体験で戸越台ホームを訪ねたり、ボランティア活動の経験があったからです。

初めてご利用者と話をする時は、何からどのように話したらよいかかわからず、ただ話を聞いているだけでした。ご利用者は中学生の私を相手に戦争の話、お孫さんの話など色々な話をしてくださり、帰り際に、「話を聞いてくれてありがとう、またおいで」と言ってくれました。

その時から「ありがとう」という言葉の響きが心地よく、とても大好きになり、介護に興味を持つようになりました。専門学校を卒業して、戸越台ホームで働くようになって7年。新人の頃は業務を覚えるのに必死で、余裕もなくご利用者に満足していただけるケアではありませんでしたが、ご利用者は辛抱強く黙って、暖かく私を育ててくださいました。ホームでは、様々な出会いと別れがあります。その一つひとつが、心に残っています。ちょっとしたこと、些細なことでも、ご利用者は「ありがとう」とおっしゃいます。私は、毎日その言葉に支えられています。

私の中では今も昔と変わらず、一番大切に大好きな言葉です。

戸越台ホーム
生活サービス室

高橋 祐人

平成28年5月開設 (仮称)平塚橋特別養護老人ホーム 準備着々と

最新情報はホームページで
ご覧ください
<http://www.santokukai.com>

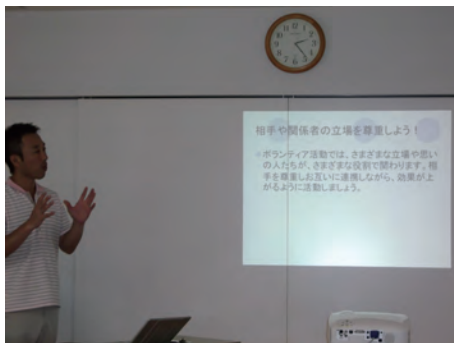


平成 27 年 8 月現在



工事の進捗状況

炎天下にも関わらず工事は順調に進んでいます。徐々に鉄骨ができていき、今では9階部分までできあがりしました。毎週、三徳会のホームページで工事現場の写真を掲載していますのでご覧ください。徐々に組みあがっていく姿がとても頼もしく思えます。



講座の様子

TEL (5750) 3632
FAX (5750) 3695

担当 宮崎・石沢

【問い合わせ先】

平塚橋特養ホーム開設準備室

ボランティア活動の心構えや注意事項などをお伝えし、ボランティアセンターの情報を提供することで、一歩踏み出す手助けになればと考えています。少人数でも随時開催予定ですので、気軽にご連絡ください。



ボランティアのはじめかた講座

ボランティアに関心はあるけれど、何からどう始めようかと考えている方、どのようなボランティアがあるのかわりたい方、ボランティアができるかどうか迷っている方を対象にした講座です。



デイスサービス送迎車



研修の様子

職員募集

各地の専門学校や就職説明会に法人担当者が出向き、説明・面接を行っています。新卒の学生さんや介護の仕事を始めて、という未経験の方も歓迎です。すでに採用され、実際に現場で研修をしている方もいます。介護以外の職種、非常勤職員も募集しています。いっしょにワクワクをつくりましょう。

※就職説明会 9/12(土) 10/3(土)
以降毎月第2土曜日を予定しています。